

交通安全活動の貢献者を顕彰 町内の2人に「緑十字銅章」

長年にわたり交通安全活動に貢献した福岡健さん・上重松さんと泉徹さん・船戸さんに、(財)全日本交通安全協会から交通安全章「緑十字銅章」が贈られました。

福岡さんは内子交通安全協会の監事を務めるほか、天神地区の交通安全

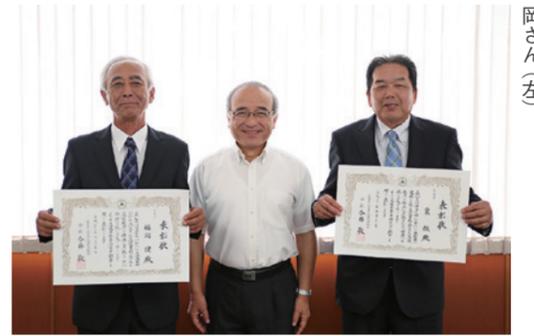


贈呈式の後、木製ベンチの座り心地を確認しながら記念撮影

活動を積極的に行い、模範となっています。泉さんは内子安全運転管理者協議会の会長を務め、小中学校の交通安全教室などで指導しています。

伝達式は9月25日、町長室で行われ、稲本隆壽内子交通安全協会長から表彰状が手渡されました。

表彰状を手にする泉さん(右)と福岡さん(左)



内子駅に木のぬくもりを—— 観光協会が「内子杉のベンチ」を寄贈

内子町を訪れる人たちを温かく迎えたいと、内子町観光協会(池田中央)からJR四国内子駅へ「内子杉のベンチ」が寄贈され、10月9日に贈呈式が行われました。

贈られた木製ベンチは7台。企業組合内子手しごとの会が製作したもの

で、座りやすいように背もたれなどの角度を調整したり、杉板の角を丸めたりするなどの工夫がされています。

池田会長は「内子杉のぬくもりや内子町の職人の技を感じるベンチ。末永く大切に使用してほしい」と話しました。

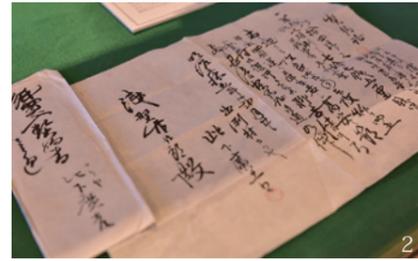
近代の内子の発展を支えた産業 製紙と製蠟を知る企画展を開催

明治150年を記念した企画展「製紙と製蠟——」が10月12〜31日の間、内子町ビジターセンターで開催されました。

12日は式典があり、愛媛大学大学院の学生が、製紙に関する調査結果を報告。「元生産者の人たちの製紙業への思いや産業・文化として継承していくことの大切さを感じた」と発表しました。

企画展の資料は多くものが初公開で、学芸員の小野翠さんは「木蠟や和紙の品質向上のために、天神と内子が協力したことを示す資料など、新たに分かった事実もある」と解説します。

11月からは木蠟資料館上芳我邸と五十崎風博物館で同企画展を開催します(12月2日まで)。観覧には入館料が必要です。観覧には入館料が必要ですが、ぜひご覧ください。



1_企画展初日は町の学芸員が展示品を解説
2_明治期の紙買入れに関する契約書



寄付された二宮邸。良材が使われ、重厚な雰囲気醸す外観

住民・学生・有識者が一堂に会し、 「内子のミライ」をつくる作戦会議

歴史まちづくりシンポジウム「内子のミライ」歴史を活かしたまちづくり作戦会議」が10月14日、内子座で開かれ170人が参加しました。

内子町では現在、「歴史的風致維持向上計画」の策定に取り組んでいます。同シンポジウムは、多くの人とまちの未来を語ることでその周知を図り、景観・歴史・伝統文化を生かしたまちづくり

を考える契機にすることを目的としています。

神戸芸術工科大学・西村幸夫教授の講演や東京大学都市デザイン研究室などの事業提案があったほか、各分野で活躍する町民8人が情報提供し、内子町の可能性を再確認しました。参加者からは「本物」を大切にすることがカギ、「自分に何ができるか考えさせられた」などの声が聞かれました。



1_登壇した町民の皆さん 2_西村教授は「歴史まちづくりと内子」と題して講演 3_東大生の提案ほかパネル展も開催

「地域のために活用してほしい」 名誉町民・二宮幸巳邸を内子町へ

このたび名誉町民・故二宮幸巳氏の相続人である二宮和也さんから内子町に、土地や建物などが寄付されました。

二宮幸巳氏は林業・製材業を通して旧小田町の発展に貢献したほか、松山聖陵高等学校の創設者として教育にも力を注ぐ

など、幅広い分野で多くの功績を残しました。

寄付された建物は畳敷きの帳場があるなど、昭和初期の商家の様式をよく残しています。内子町では今後、二宮氏が尽力した「林業」や「教育」といった分野での建物の活用を検討する予定です。

内子座から学ぶ舞台技術 「音響・照明・話し方講座」

「音響・照明・話し方講座」は10月23日、内子座で開かれました。音響・照明・話し方の3コースがあり、全5回の開催。最終回の11月20日には、3コース合同で発表会をする予定です。

音響と照明の講座では内子座の機材の役割や特

徴を学びました。次回から操作や特殊効果などを実践します。話し方講座に参加した大程幸子さんは「プロの指導でワクワクした。相手を思いやる気持ちや交流の楽しさなどを学べた。若い人にも参加してほしい講座」と絶賛しました。



内子座の舞台上で音響と照明の講座が行われた